

心ひとつに

弥富市立桜小学校
学校だより
No.24
平成26年2月4日

しつけの三原則―「はき物をそろえる、椅子を入れる」

しつけの三原則の中で、「はい」という返事について、学校だよりNo.23で詳しくふれました。本号では、3番目の「はき物をそろえる、椅子を入れる」ということについてふれます。

はき物を揃える、机の下に椅子を収めるというのは、「自分の動作の終わりをきちんと整える」ということではないかと思えます。自分で自分を律するという点で、自制力と自律性を培うことにつながっていきます。

森信三先生は、「足元の乱れは心の乱れの証拠であり、心の乱れは財布の口の開け広げにつながるので、はき物を揃える、机の下に椅子を収めるは、経済の締めりにもつながる」と述べています。

「しつけ」という漢字は「躰」と書きます。分解すると、「身が美しい」と書くのです。この漢字は、中国にはないのだそうです。「身が美しい」と書いて「しつけ」と読ませるといのは、日本人の発明なのだそうです。美しいふるまいを身に付ける。それが、生き方を正しくし、精神を鍛えることに通じていくのだと思うのです。

全校朝礼の話より（2／3）

「倍返し」は、人生で本当に大切なものか？

物事を我慢しないで不満があったら、すぐやり返すことは本当に良いのか？小さなことでもめても、よく考えずにやり返したり、倍返しをしてしまったりする性格・人間になってしまったら、その人の人生は、トラブル・衝突・争いの連続になってしまうのではないかと思います。もちろん、嫌なことや意地悪をされたら、「やめてよ」と言うことは大事です。

やはり、お互いに過ちはあるけど、「そんなことは大したことではない」大きな目・心で物事で対処し、他人と仲良くやっていくほうが大切ではないのか。「やられたら、やり返せ」の復讐的な考え方・行動は、お互いが不幸になるだけで、良い結果につながらないと思います。

キリストは言った。「右の頬を打たれたら、左の頬もだせ」右の頬を打たれたら、そんなに「自分に悪いところがあるとあなたが思うなら、私の左の頬もぶってください」と差し出せば、相手はあなたのその態度に驚いて、自分のやっていることの非道さに気づいて自省する（反省する）ということだと思のです。

なかなか実践できることではありませんし、そんな境地に先生もなかなかありませんが、長い目で人生をみたら、「倍返し」よりそちらのほうが正しいと思うし、その人の人生に争いではなく、幸せをもたらすのではないかと思います。

私の人生を振り返ってみても、短絡的に反抗したら、その後の大きな失敗につながったことがあります。腹が立ったら、短絡的に行動せず、時間を置いて考え直してみるという態度を基本にしたほうが良いのではないかと思います。そうすれば、「そんなことは、たいしたことはない」「相手は故意ではない（わざとではない）」などの状況が分かってきます。

相手への怨みや、憎しみへの倍返しではなく、相手から受けた恩・愛情・思いやりに対して、それを倍返ししていくという考えをもった方が正しいと思うし、互いに幸せになれると思います。

いじめや意地悪があった場合、「やられたらやり返す、倍返しにする」という復讐の考え、行動をとれば、トラブル・衝突・けんか・争いが大きくなり、しかも、それが続いていくだけです。人間関係の修復・改善にはなりません。その解決にあたっては、同じ方法でやり返しても、決して良い結果は生まれません。別の解決方法をとってください。自分で解決できなければ、先生や親に相談することが基本です。